

翻訳はご利用者の利便性のために提供するものであり、完全な正確性を保証するものではありません。当社は翻訳の誤りによるいかなる損害についても責任を負うものではありません。

株式会社東芝 社外取締役と株主・投資家とのグループミーティング

日 時：2019年10月1日（火）13:00～14:00

場 所：株式会社 東芝 本社

出席者：取締役会議長 社外取締役 小林 喜光

社外取締役 藤森 義明

社外取締役 レイモンド ゼイジ

参加者：31社・43名（うち国内20社・26名、海外11社・17名）

■小林取締役 冒頭挨拶

取締役会議長の小林でございます。本日はご多忙の中、ご足労頂きまして誠にありがとうございます。また、今回も海外から多くの株主の皆様にお越し頂きましたこと、感謝申し上げます。株主の皆様とのコミュニケーションを強化する観点から、今年1月に当社として初めてこういった形でグループミーティングを開催し、継続的な対話をお約束しました。今回は、株主総会を経て新しい取締役会体制のもとでの開催となり、新たに就任した2名の社外取締役の方にも参加頂き、より幅広い対話ができればと考えております。

ご承知のように、当社が「東芝 Next プラン」の実行という新たな成長の段階に入り、まずは基礎収益の強化を進めておりますが、同時に新たな成長を追求するフェーズに入りつつあります。それに伴い、取締役会の構成を一新いたしました。企業再生やM&Aの経験、投資家の視点、グローバルの視点などをお持ちの強力なメンバーに加わっていただき、再生から成長に議論の舵を切って議論をすすめております。

新しい取締役会のもと、すでに外国にお住まいの方には4回来日していただき会を開きました。最初に一年間の討議内容を固めました。1回目と2回目では、それぞれの事業の概況や課題を新任取締役にご理解頂くことに時間を割きました。また、一部の取締役は主要な拠点の訪問も行っております。また、「東芝 Next プラン」をベースとしつつ、事業ポートフォリオや資本政策など、会社の基本戦略という観点から、将来の東芝グループのあるべき姿について議論を開始しました。多様なバックグラウンドを持つ取締役の皆さんがそれぞれの経験に基づき、グローバルな視点も踏まえ、非常に内容の濃い議論が展開されております。

また、私は報酬委員会の委員でもありますが、報酬委員会では引き続き執行役のあるべき報酬制度について検討を重ねており、中長期的な観点で株主価値向上に資するような、中期のTSRを用いたインセンティブについても検討を重ねています。

取締役会の開催回数は、月1回程度になっておりますが、日英両方での資料の事前配布などに工夫し、1回の会合で相当程度の時間をかけて活発かつ実質的な議論がなされてきて

おります。日本語と英語の間での通訳を介しての会議運営となっておりますが、想定以上に有意義な討議が行われているというのが率直な感想です。

また、取締役会全体が危機感を共有しており、スピード感のある積極的な討議を経て、11月にも基本戦略に関する事項の一部について取締役会で決定し、公表できるのではないかと考えております。引き続き、取締役会として変わる東芝の姿をお示ししていきます。

中長期的な企業価値の最大化という観点では、SDGsで定義されている、様々な社会課題の解決に貢献することが重要であります。東芝グループの、エネルギー・社会インフラ・電子デバイスなどの各事業は、SDGsの方向性と非常に親和性が高いと考えています。エネルギー需要の増加、気候変動、都市への人口集中、高齢化といった諸課題に対し、事業を通じて貢献していくことで、ステークホルダー全体にとっての企業価値の向上を実現することができると考えております。

また、企業価値の向上を実現するためには、従業員のモラルへの配慮も欠かすことはできません。危機的な状況下において、一時増加した退職者数は、18年度には会計問題前の水準まで戻りましたが、Nextプラン達成に向け、従業員のエンゲージメントを高めるための取り組みにも、目を配っていきたくと考えております。

「東芝Nextプラン」初年度として、現在その遂行に向けて各種施策を展開しておりますが、社外取締役として独立した立場で株主・投資家の皆様との対話を通じ、取締役会に反映させることが期待されている状況でございます。

今、2019年度営業利益1,400億円に向けて順調に進んでいると聞いております。

今後もこのような機会を増やしていくことを検討してまいりたいと思います。

なお、我々は社外取締役ですので、会社法の規定により業務執行の権限を有しておりませんので、業務執行に係るご質問にはご回答できませんので、予めご了承願います。

■藤森取締役 冒頭挨拶

藤森でございます。私は長い間GEというアメリカの、大体東芝と同じようなポートフォリオを持った会社で25年間やってきました。私が25年間やってきた中で、基本的なエクスペリエンスとしては医療器、プラスチック、素材関係、そしてGEキャピタル、それにアジア、日本を中心とした地域管掌で、その地域管掌の中でエネルギーとか飛行機のエンジンとか、医療器とか、いわゆるクロスビジネスでもって全てを管掌してまいりました。その意味で、東芝とも非常に長いおつき合いをさせていただいております。昔の東芝、そして今の東芝、随分変わりましたが、東芝さんの力とか、東芝さんのブランドとか、そういうものは非常に尊敬しております。

また、5年間リクシルという日本の会社ですけれども、建材を中心とした会社でCEOをや

ってまいりました。私の CEO としての 5 年間の目的は、基本的に日本中心だったリクシルという建材の会社をグローバル化するという事で、大きな M&A を幾つか打ちまして大きな変革を遂げました。私が、ジャック・ウェルチを中心に GE で学んだことが、リーダーの役割というのは、人材を育てて変革を起こすことであるということです。この二つを中心に、私は人を育て、そして大きな変革を起こしながら、リクシルを大きくグローバル化の道に持っていきました。そのような経験と私の信条を持ちながら、東芝の取締役としてこれからの発展に寄与したいと思っております。

■ゼイジ取締役 冒頭挨拶

(翻訳)

ありがとうございます。レイモンド ゼイジと申します。皆様、本日はご参加いただきましてありがとうございます。また、この数カ月間さまざまなフィードバックを取締役会に、また、会社に対していただきまして本当にありがとうございます。皆様の知見や洞察は、会社にとっても非常に有益なものです。

私はニューヨークの投資銀行でキャリアを始めまして、今はこの 26 年間シンガポールを拠点としております。シンガポールが自国ということで、東京との行き来もやりやすく、これまでも多く行き来しています。小林議長からもありましたように、私の方もこの数カ月間何度も日本に来ておまして、そして今後も他の取締役の方々、そして経営陣の方々という協業していくのを楽しみにしております。

私の気づきですけれども、今までのところ非常に建設的な対話が行われておりました。特に私が申し上げてきているのは、この取締役の、会議室の中で行われていることを皆さんも目にすることができれば、本当に明るい気持ちになるだろうと。つまり、非常に活発な議論が会議では行われているということです。私の方からも今後皆様とも関与しながら、そして東芝の他の取締役、経営陣と協業しながら貢献していきたいと考えております。

以上